

氏名	佐々木 祐
職位	COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>今年度の中心的研究課題は、ラテンアメリカ「周縁」部における自己表象のポリティクスとコンフリクトを分析することであった。具体的には、メキシコ南部・チアパス州における先住民運動を題材に、映像制作実践の中でいかにして「われわれ」像が構築・提示されるかのプロセス分析とともに、その過程で遂行的に新たな「われわれ」イメージが再編成されてゆくダイナミズムを焦点化して考察を進めた。</p> <p>「インディオ」を管理・同定するための国家の治安－暴力装置の一部であったビデオカメラを、まず第一には自らの権利防衛の武器として、そして第二には現在進行しつつある生のあり方を捉え直す契機として、そして第三には新しい社会的自画像を構築するための創発的な関係資本として、鹵獲・流用することが、現在当地域で進展しつつあるのである。</p> <p>また、こうした活動は常に「共同体」の内部において、しかも彼らのエスニックな出自である「マヤ系先住民」としての文化的背景を常に参照しながら行われている。だが、その行為は決して閉域における自己言及的な映像ゲームとして内向してしまうことはない。言語的・文化的・歴史的背景の異なる他共同体・行政区との連関、国内・外からの支援者・訪問者との交通、そして、メキシコ社会におけるあらたな社会的アクターとして自らを規定し直す行為、これらを通じて、生産される映像群は常に/既に外部に向かって開かれたものとなっているのである。より正確にいうならば、この映像実践においては、通常たてられるような「内/外」の相互陥入と領域侵犯が不断に繰り返され、その交錯する界面領域に於いて、あらたな「社会」が構想されつつあるのである。</p> <p>現在進展中のこうした運動を、現地調査・映像分析・理論的考察を通じて明らかにすることが、佐々木の 2009 年度における研究概要であった。</p>	
<p>業績リスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文「共同的映像の可能性：メキシコ・チアパス地域先住民の実践から」、『言語文化研究』、第 21 巻 3 号、立命館大学国際言語文化研究所、2009 年 ・論文「内破する映像群から－チアパス地域先住民の社会实践をめぐる素描」、『国際共同研究「移動するマイノリティの生き延びの為の親密圏生成に関する実証的研究」成果報告』 ・論説「新しい自律空間の創出にむかって — EZLN/Primer Festival Mundial de la Digna Rabia から」、『インパクション』、168 号、インパクト出版会、2009 年 ・書評「文化の窮状」、(ジェイムズ・クリフォード 同名書)、『社会学ベーシックス 3 文化の社会学』、世界思想社、2009 年 	